Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.7(2024年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『私の顔はどうしてこうなのか　骨から読み解く日本人のルーツ』
溝口優司

「日本人っぽい平均的な顔」を思い浮かべて下さい。例えば映画のスターや有名ミュージシャンの西洋人と比べてみて、「鼻が低め」「目が一重」「顔の形が丸い」「男性はヒゲが薄い」・・といった特徴がありませんか？それらの特徴の共通点は、ずばり「ベビーフェイス」ですよね。ヒゲの生えてる赤ちゃんなんていませんから。ではなぜ、日本人の顔は赤ちゃんなのか。そこを糸口にして、この本は日本人のルーツを探っていきます。

『正体』　染井為人

11 月 29 日から横浜流星主演の映画の公開が予定されている、原作の小説です。ジャンル分けするならば、「サスペンス系」と「感動系」とがほどよくミックスされた小説で、幅広い人にお勧めできます。

3 人を殺害した罪で死刑の判決を受けた18歳の主人公の鏑木慶一。しかし彼は、逮捕から 1 年半後に拘置所を脱走してしまいます。鏑木は顔を整形し、偽名を使って全国を逃亡し続け、さまざまな人に出会うのですが・・

『私たちは売りたくない！ ”危ないワクチン”販売を命じられた製薬会社現役社員の慟哭』　チームＫ

日本で最もワクチンを製造している会社、Meiji Seika ファルマ株式会社。その会社の現役社員の有志数名が「クビを覚悟してまで」（本書より）ワクチンに対して警鐘を鳴らす本を世に問いました。誰よりもワクチンをよく知る人たちの仲間・影山晃大氏（かげやまこうだい）氏が３年前に２６歳の若さで亡くなったからです。ファイザー社の新型コロナワクチンを打った後に・・「晃大」の名前から「チームＫ」と名乗るワクチンの専門家たちが訴える、ワクチンの危険性とは？

『ヤマケイ登山学校 バックカントリースキー&スノーボード』
藤川健、旭立太

バックカントリーとはスキー場でない、自然の雪山のこと。そんな大自然で滑れるなんて素敵ですね！本書では、雪山を登り、滑るための準備や技術ももちろん解説されていますが、自然のままの雪山を滑るのには危険がつきもの。32 ページを費やして、危険への備えやいざという時の対処法を指南しています。

『すべての、白いものたちの』　ハン・ガン

ある日、母は一人でいる時に突然、赤ちゃんが生まれそうになり、田舎で電話もなく、そのまま産着を縫いながら一人で子どもを産み、へその緒を切りました。しかし、「死なないで」という母の願いもむなしく、産着を着せられた主人公の姉は、生まれてからわずか２時間でこの世を去ったのでした・・

作者のハン・ガンは、今年、はじめてアジア人女性としてノーベル文学賞を受けた韓国の作家です。詩人としての顔も持つ彼女のこの作品は、独特な雰囲気を持つ詩的な文体を持っています。

『イスラエルとパレスチナ――ユダヤ教は植民地支配を拒絶する』ヤコヴ・ラブキン

イスラエルとパレスチナの紛争に世界中が頭を抱えていますが、この本は、「ユダヤ教徒（ユダヤ人）の作者がイスラエルを批判する」という内容です。ユダヤ人が建国したのがイスラエルですが、同じユダヤ人でも「ユダヤ人の救済は神によってなされるべきであり、武力で国を創るのはユダヤ教の教えに反する」という考えもあるのです。

『常識やぶりのアイデアおやつ ～「材料４つまで」の１００レシピ』syun cooking

例えば、わらびもち。「片栗粉」「バニラアイスクリーム」「きな粉」というたった３つのどこでも入手できる材料で作れちゃうんです。この「手軽な材料４つまでで我が家のお菓子を作る」というコンセプトが受けて、今年の「料理レシピ本大賞」を受賞しました。

『告白撃』　住野よる

本校でも大人気の作家・住野よる氏による待望の最新作です。

タイトルの「告白」って、もちろん恋の告白のことなんですが、この作品では、主人公の女性が自分に片思いの男性に対して想いを告白させる計画を立てるのです。しかし、恋愛を成就させるためではありません。女性はその男性を「友だち」として大切に思っており、自分の結婚を機にその男性を失恋させ、彼自身の人生を前に進めさせたい、という狙いがあったのですが・・

『神田松之丞 講談入門』　神田松之丞

「落語」なら見たことはあるが、「講談」は知らない、という人も多いんじゃないでしょうか。でも、どちらも日本の伝統芸能で、「面白いお話を聞かせる」という共通点があります。違っているのは、講談は「実際に存在した人」を中心に話す、ドキュメンタリーの側面があることです。「石川五右衛門」や「一休さん」が活躍する講談の世界をのぞいてみませんか。

今号のひとこと

子どもと関わる大人のみなさん、あなたの前にいる子どもから学んでください。これは私が自信を持って言えることです。　※

中川李枝子(1935-2024)

国民的児童文学作家の中川李枝子氏が、惜しまれながら先月天寿を全うしました。名高い作品を数多く書いた彼女ですが、中でも、妹の山脇百合子氏が絵を描いた絵本『ぐりとぐら』シリーズは大人気で、シリーズの総売り上げは二千万部を軽く超えたそうです。また宮崎駿のアニメ映画『となりのトトロ』の主題歌『さんぽ』（歩こう、歩こう、私は元気・・）の作詞も中川氏の手によるものとは、私もお悔やみのニュースで初めて知りました。彼女の作品に、あらためて触れてみませんか。

※『子どもはみんな問題児。』より。